

ぜん ぎょう じ
善巧寺報

4 月号



月刊●善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660
榎本明覚



▼二〇一三年四月一日▲

手軽なおやつやおつまみとして、スーパーやコンビニで買えるピーナッツ。
現在、日本国内のピーナッツ流通量全体の約9割が外国産で、国内産は約1割程度。国内産のピーナッツは貴重です。
日本での生産量の約80%を占めて第1位は千葉県、2位は約12%の茨城県、3位は約2%の神奈川県。

東京教区の食材

～ ピーナッツ(落花生) ～

定例法座

毎 月 十 一 日

＊ はなまつり ＊

◎四月十一日(火)

午後二時～三時

於 本 堂

「お釈迦さまのお説法」

お釈迦さまは教えを尋ねてくる聴き手に合わせて仏法を説かれました。例えば、怒り狂っている人に対して「怒るな」と言っても聞く耳を持たないので、怒ってばかりいると結局我が身の損になると教え諭し、煩惱を対治する事が平穩に我が身のためであると説いたり、論理的判断が出来なくなっている人に対しては、そもそも言葉で諭しても理解されないので、簡単な課

題を与えて実践してもらい、実践を通じて煩惱の塵を払い平穩に至る道こそ最上であると気付かせたり、そうした「対機説法」という形で様々な人々を安穩の仏道に導いていかれたのでした。よくご法事の会食などで「どうしてお釈迦さまは一人なのに、現在の仏教には多くの宗派があるのでですか」という事を尋ねられますが、一人一人の性質、さらには風土・習慣・道徳等の違いを考慮して法を説けば多様性が生まれてくるのはむしろ自然な事とも言えるでしょう。

親鸞聖人は、そうした説法主・大導師たるお釈迦さまが涅槃に入られて二千年も経ち、もはや正しく教え導く先生がいない世

界、それが今の世である(末法)と反省する立場で一代仏教を讀み解いていかれました。お釈迦さま滅後、仏弟子の機根が劣っていくという考えは親鸞聖人に始まった事ではなく、龍樹菩薩(A.D.200)の『易行品』にすでにその片鱗が見え、師法然聖人もまた深い問題意識を抱いていました。

釈迦如来かくれましたして

二千年余年になりたまふ

正像の二時は終りにき

如来の遺弟悲泣せよ

釈迦の教法ましませど

修すべき有情のなきゆえに

さとりうるもの末法に

一人もあらじと説きたもう

しかしながら、そのお釈迦さまは滅後末法となる事も重々ご承知であり、未来の人々のために南無阿弥陀仏の御信心という教えを遺されたのでした。

釈迦弥陀は慈悲の父母

種々に善巧方便し

我らが無上の信心を

発起せしめたまいけり

お釈迦さまのお説法によつて、煩惱から逃れがたき我が身である事を思い知らされ、そのような私を決して捨てぬと誓われた大いなる慈悲を味わわせて頂きましょう。本堂に花御堂を設置いたします。誕生仏に甘茶を注いでお参り下さい。

みほとけ会月例会

※ZOOMミーティング※

開催日時は、

毎月第一木曜日、第三木曜日

午後八時開始・九時終了

参加ご希望の方は、

jetfidget@gmail.com

まで

※『総永代経法要』について

五月二十一日に勤修する総永代

経法要は、本年も念のため規模

縮小で行います。詳細は次号お

伝えいたします。

◆◆春日部だより◆◆

◎お彼岸のお参りでは大変お世話になりました。新型コロナの規制もだんだん解除され、元の日常生活に戻りつつありますが、ご高齢の方とお話する機会が多いお寺では状況に気を配

り感染対策をしながらお勤めをして参ります。何卒よろしくお願いいたします。

◎自転車で古利根川沿いをお花見。満開と雨天が重なってしまいました。満開と桜というのもまたしつとりとした趣があるものですね。四季の恵みの有難さを味わえた今年の桜でした。

